

ハイライト:

- 日本ELVリサイクル機構の社員総会で選任された新役員が本格的活動開始
- 「使用済自動車判別ガイドラインワーキンググループ」の設置が決まり、第一回会議が来る7月1日(木)13:00より、千代田区平河町の都道府県会館で開催される。機構を代表して渉外担当副代表理事の大橋氏が委員として参加の予定(結果は次号報告)
- 役所の異動シーズンを迎え、経産省自動車課でも、リサイクルチームのメンバーが相次いで異動される。詳細は次号。

<ご注意> 本文中に赤字で掲載されているメールアドレスやURLは、Ctrlキーを押しながらその個所にカーソルを合わせ左クリック(Windowsの場合)すると表示されます。

もくじ

ハイライト	1
新役員に聞きました	1~2
お知らせ	1
事務局通信	2
編集後記	2

1. 新役員に聞きました ~ その1 ~ (順不同)

去る5月27日に開催された、日本ELVリサイクル機構平成22年度社員総会において、選任された役員・ブロック長の方々に、機構の課題、将来に対する見通しなどについてご意見をお伺いしました。記載内容は次の順番です。

①生年月日 ②出身地 ③所属団体 ④機構での役職

■栗山 義孝 (クリヤマ ヨシタカ)

①1941.3.14 ②東京都 ③東京リサイクル協議会

④代表理事

※栗山代表理事につきましては、前号巻頭にメッセージを頂いておりますので割愛いたします

■伊丹 伊平 (イタミ イハイ)

①1942.1.23 ②北海道 ③北海道自動車処理協同組合

④副代表理事

<直面する課題、問題>

使用済自動車発生台数の減少傾向、それを数倍上回る業界全体の処理設備、そして仕入れ競争の激化と企業間格差の増大

<業界の進むべき方向>

個社としてはプロシヨップ的な特徴ある個性的な企業作りが問題解決の道、業界としては高度できめ細かい精緻なリサイクル技術の習得と次世代自動車(EV、HV燃料電池車等)の部品、素材リサイクルの研究

<ELV機構の果たす役割>

社会と業界の窓として内にももる熱気を外に、外からの風を中に取り込むのがELV機構の一番重要な役割で、それに伴う正確な情報の受発信。会員各社の経営に資するための情報収集と現場への展開。

■垣花 善則 (カキノハナ ヨシノリ)

①1962.8.19 ②沖縄県 ③沖縄自動車リサイクル協同組合

④理事・沖縄ブロック長、リサイクル技術部会長

<直面する課題、問題ならびに、今後、業界のすすむべき方向とELV機構が果たしていくべき役割>

環境に配慮した精緻な自動車解体を行い、これを担保するために資格制度の構築を早急に確立して行くことだと思います。

これによりELV機構の存在意義が増し、会員拡大及び資格取得の為の講習会開催料収入等で収益事業の確立につながるのではと思います。

■榎本 擴 (エノモト ヒロム)

①1945.3.19 ②埼玉県 ③埼玉自動車解体事業協同組合

④副代表理事

<業界の直面する問題>

国内自動車販売の低迷で廃車発生が減少し、業界の仕事量が減り、競争激化が進むと考えられ、採算を度外視した廃車獲得に拍車がかかることを懸念する。

<今後の課題>

仕事量の拡大ではなく、いかに付加価値を高めるかが課題であり、業界が地域ごとに団結し、生き残りを考えることが大切。

<機構の課題>

全国の解体業者と行政とのパイプ役としての役割を全うするため、未入会会員の加盟促進を図ることが重要な課題。

■高谷 正弘 (タカタニ マサヒロ)

①1947.2.6 ②石川県 ③石川県自動車部品協同組合

④中部ブロック長

<業界の課題>

特に、小規模企業にとっては、次世代の経営者育成が急務で、これが会員数減少にも繋がっている。また、外人への名義貸しなど、競争至上主義的な考えも会員減少の要因であると考えられる。

<機構の課題>

今回のニュースレターの発行などにより、自動車リサイクル法に基づいた活動の徹底や本部活動を会員へ周知させる方向に賛成。技術向上や教育はインストラクターの養成等により続けてほしい。

■木内 俊之 (キウチ トシユキ)

①1953.3.9 ②千葉県 ③千葉県自動車解体協同組合

④理事・総務部会長、関東東ブロック長

前期に引き続き総務部会を担当する事になりました。

昨年度は、大きな赤字を出してしまい大変申し訳なく思っております。今年度は、より慎重に取り組み充実した活動の中、黒字にすべく鋭意努力していく所存です。

さて今年度、栗山新体制がスタートしました。副代表も4名体制で、よりきめ細かな活動が出来ると考えております。国・行政・関係機関からもELV機構に対し大きな期待を寄せて頂いている所ですが、我が機構としても期待に応えるべく会員各位のレベルアップを共に図りながら魅力ある組織に成長し、将来的には業界の中で「ELV機構の会員でなければ・・・」と言われる様に頑張りたいと思います。

<お知らせ>

先に関催されましたELV機構年次総会、酒井清行氏を偲ぶ会、ならびに総会懇親会の写真をアップロードしましたのでご覧ください。

http://picasaweb.google.co.jp/taka913pics/22?authkey=Gv1sRgCKLnu_33_CYPQ#

<発行者>

一般社団法人日本ELVリサイクル機構 広報チーム

〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2番2号 一美ビル5F

tel 03-3519-5181

fax 03-3597-5171

e-mail jaera-office2@clock.ocn.ne.jp

■金澤 寿幸 (カナザワ トシユキ)

①1947.4.11 ②東京都 ③江戸川自動車解体商興会

④理事・関東中ブロック長

〈業界の直面する問題〉

都市部の空洞化問題、大規模業者と小規模業者の格差問題、後継者難による廃業に起因する会員減少問題等。

〈機構の課題〉

行政とのコミュニケーションを進展させ、解体業者の声を聞いていただくための体制構築。

■高野 和憲 (タカノ カズノリ)

①1969.12.14 ②大阪府 ③大阪自動車リサイクル協同組合

④理事・近畿ブロック長

〈業界が直面する問題〉

解体業者の廃車処理能力に対して廃車発生台数が不足する状況への対応が一つの大きな課題と思っています。私の会社は小さな会社で、大阪市内の狭い敷地しかないため、少ない資源を如何にしてより効率的に売上に変えていくかを常に考え、社員全員で取り組んでいます。

〈取り組むべき課題〉

解体車には様々なニーズが含まれていると思われるので、素材回収、部品販売、またその他の利用方法なども考えながら、少ない台数で経営を成り立たす事が出来るかを大きなテーマとして取り組んでいます。解体業者には様々な営業形態があるので、それぞれの立場や環境条件にあった事業展開を考えるべきであると考えています。そのためにもELV機構が中心となり、解体車に対する様々な社会のニーズを引き出す事が出来るよう活動できればと思います。

～事務局通信～

●去る5月27日の定期社員総会を終え、翌、28日に今期第一回の常任役員会が開催されました。常任役員会は、今期から新たに設置された、機構のいわば「かじ取り役」で、機構の運営に関する諸事項につき審議・決定する役割を担います。既に、本紙前号でもお知らせしたとおり、常任役員会は、代表理事と4名の副代表理事並びに総務部会長(理事)により構成され、原則、1月と8月を除く毎月第三木曜日を予定しております。常任役員会は、時々のテーマに合わせ、必要と認められた場合は理事、部会長にもご出席いただき、迅速かつ明確な問題解決を図るよう運営することを目指します。なお、機構理事会は、9月と4/5月の年二回開催を原則とし、理事会の所掌する予算、組織、人事等に関わる案件の審議、決議にあたることとなります。

●新代表理事と副代表理事の一部が、6月8,9両日に関係先への挨拶回りをしました。8日には、港区大門の自動車会館を訪問し、自工会、自販連、自再協、促進センターなどで新任のご挨拶と今後の協力をお願いしたほか、9日には、経産省、環境省、中企庁などを訪問し、ご挨拶を行いました。新代表並びに新執行部に対して各方面から期待の声が寄せられました。



環境省上田室長、坂口補佐と



自再協を訪問した栗山代表、伊丹、大橋副代表



経産省荒井室長と

●これから各地で開催される地域団体総会、ブロック会議等へ、栗山代表をはじめ、副代表の方々に時間の許す限り出席いただく予定です。皆様の抱える問題、課題等につき、率直な意見交換がなされるよう期待しています。(ELV機構事務局)

■辻 隆雄 (ツジ タカオ)

①1958.7.14 ②福岡県 ③北九州ELV協同組合

③理事・ブロック長会議長、九州ブロック長

〈機構が直面する問題〉

今後、車の販売台数の減少に伴って廃車台数が減少することから競争が激化すること、また、後継者不在の問題などもあり当機構の会員数の減少は否めない。

〈業界が直面する課題と対策〉

現状のマテリアル販売、中古部品販売、貿易販売等の販売ルートだけではなく、様々な販路及び資格等を身につけ差別化しないと我々業界の存続すら危ぶまれる。そこでELV機構が資格制度等を構築し差別化してさらなる販売拡大になる為の情報提供を出来る様になれば機構の会員数も増加するのではないだろうか。

■前沢 敏 (マエザワ サトシ)

①1947.4.18 ②茨城県 ③茨城県自動車リサイクル協同組合

④監事

〈業界の直面する課題、問題〉

業者間格差の広がりが一番に上げられ、適正な営業努力をしている事業所とそうでないところとの差が目立っている。顕著に表れているのが入庫台数とリサイクル部品の売上高と思う。もちろん入庫が少なくなれば貿易向け部品も減少している。これは決して大手だからよく、小規模だからだめということではなく、各事業所の規模に応じた上での内容であり、それぞれの業務内容を真剣に見ている業者は強いということである。

〈業界の進むべき方向〉

使用済自動車といわれる大切な資源を適切にリサイクルする事であり、将来においても変わりはない。問題は事業者がどういう頑張りをするれば健全な経営が成り立っていくかで、そこにELV機構が提供できるものと考えていく事が重要な役割と思う。

■三木 康弘 (ミキ ヤスヒロ)

①1972.1.16 ②徳島県 ③徳島自動車リサイクル協同組合

④理事・四国ブロック長

〈業界の直面する課題・問題・今後業界の進むべき方向〉

日本は既に人口減少社会であり、自動車販売はそれ以上に減少傾向となる事が確実な情勢であることから、自動車解体業はELVの発生が減ることを前提とした中で生き残りを策を示すときにきております。

〈ELV機構が果たしていくべき役割〉

その中で各社・ELVリサイクル機構として

- ・環境対策・コンプライアンス、情報公開への一層の取り組みの範を内外に示すこと
- ・大局的見地に立ち、国内外のパーツ販売、及びスクラップ・シュレッダー業界や非加入企業団体等とのネットワークの構築・許可業界としての資格者制度等の構築等について取り組むべきと考えます。

※今回掲載できなかった新役員のご意見は次号掲載いたします。

※jaeraニュースレター購読希望者は以下までご連絡ください。
jaera-office2@clock.ocn.ne.jp (件名に「受信希望」と記入)

～編集後記～

◆いよいよ、栗山新体制がスタートした。数多の課題を抱えてはいるが、希望ある将来への「栗山丸」の船出であることを心から祈りたい。折しも、国の政治においてもトップ交代と相成った。どのような将来像を見せてくれるのか未知数だが、国民の目線を維持してもらいたいと思う。機構新執行部は会員目線の維持か・・・

◆前号に掲載した、自再協公表の「エアバッグ車上作動処理業務契約」の改定問題は、残念ながら当機構にとって唐突感が残る。当事者の代表であるはずの当機構と、事前に何らかの協議ができなかったのかと思うのは、編集部ばかりか。

◆新役員のお考えをお聞きしました。会員の皆さまに顔の見える機構運営の第一歩となってほしいと思います。

◆刷新なったニュースレターVol.2をお送りします。この媒体が、一方方向に情報を流すのではなく、常に双方向の情報の流れを作り出さねばならないとかがえています。どんな記事が読みたいか、どんな情報がほしいかなど、意見を聞かせてください。会員の皆さんが育てるニュースレターを目指したいと思います。(編集部)